

三鷹市長 清原慶子 様

## 野川に自生するフジバカマについて（ご参考）

### 1 昔の自然環境

野川の自然に関心をもっています三鷹市民の安達榮一です。昨日9月10日、星と森と絵本の家に来館者25万人達成のセレモニーの後、館の正門そばに植えられたフジバカマをご覧いただき有難うございました。その際、市長より「子どもの頃にはよく見ましたが・・・」とのお話をいただきました。三鷹の野川の川沿いには、昔は、フジバカマも多く生育し、良い自然観賞であったのかと受け取らせていただきました。都市化が進んだ今は、もうフジバカマは、自然には生育していくことは難しい環境となっております。環境省のレッドリストでは、フジバカマは準絶滅危惧の区分になっていて、大変貴重な植物となってしまいました。

### 2 偶然残っていた絶滅寸前のフジバカマ

5年前（平成23年）の8月、東京大学の根本正之先生のご指導を頂き実施した大沢住民協議会環境部会主催の「環境講座：野川の外来植物を考える」のフィールドワークの際、野川公園内の野川の水辺にフジバカマが自生していることが分かりました。野川は河川管理者である東京都北多摩南部建設事務所により、年3回草刈りが行われていますが、フジバカマがよく自生している範囲約120㎡（約4m x 約30m）を、ゾーニングして、平成24年より都による草刈りを除外していただくことが出来ました。その代わりに、小生がフジバカマを残して草刈りを実施しています。その結果、成長する前に草刈りにあい、花を咲かせることが出来なかったフジバカマは、平成24年の秋に初めて花を咲かせてくれました。更に、その花の香りに惹かれてくるアサギマダラ（遠く台湾と日本間を旅する蝶）の姿を、平成24年、平成25年、平成27年に確認できました。

### 3 フジバカマの苗を育てる

野川で採取したフジバカマの種を蒔いて、毎年、自宅で苗を育てて、野川付近の公園などに苗を提供しています。

平成25年は、大沢コミセン7株、三鷹市星と森と絵本の家（国立天文台構内）6株、

平成26年は、（野川の源流）日立中央研究所の庭園45株、野川公園30株、大沢コミセン10株、

平成27年は、三鷹市星と森と絵本の家30株、羽沢小学校30株、神代植物公園植物多様性センター30株

平成28年は、大沢コミセン10株

などの提供をしております。

#### 4 京都の藤袴プロジェクト

平成10年に京都市西京区大原野で自生のフジバカマが見つかり、平成20年京都の自然と文化を守ることの大切さを呼びかけて「守ろう！藤袴プロジェクト」が行われたのを機会に、京都の多くの地域で保全活動が生まれ、市内でフジバカマが見られるようになり、保全活動を通して地域の交流が深まったとのこと。

#### 5 日本らしい自然再生の意義

最近、日本らしい自然や、美意識を感じる機会が少なくなってきました。今、秋の7草など古く万葉の時代から日本文化と深い関係があるフジバカマは貴重です。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの年に向けて、いろいろところで、「日本らしい自然」を再現し、外国人のみならず子供を含む多くの日本人に「日本らしい自然」「日本の文化」の素晴らしさを再発見してもらおうきっかけとなってもらいたいと思います。

平成28年9月11日

安達 榮一



野川のフジバカマ・ゾーン（平成27年10月6日撮影）



野川のフジバカマの開花の様子（平成27年9月30日撮影）



野川のフジバカマにアサギマダラが来ました（平成27年9月30日撮影）